

## 建設会社の新たな取組み

地域インフラを  
新たな視点から

## — エコミーティングの導入 —

地域インフラの  
とらえ方

地域に根ざす建設業の存在意義は、地域の人びとの安全安心、快適な日常のくらしを創造することである。その要求は多岐にわたるが自然との共生もその中の一つにある。これまで建設業は暮らしに便利なものを構築する代わりに自然を破壊しているというステレオタイプの表現をされてきた。確かに大地に新たな構造物を構築するには自然環境にながしかの影響を与えることは間違いない。そこで大地との直接のかかわりを持つものとしては環境保全に関して

これまで払われてきた配慮をよりバージョンアップしていくことが大切である。

「エコミーティング」と  
いう取組み

そのために当社が考えたのが「エコミーティング」という取組みである。手法としては着工前または進行中の工事現場に出向き、生活者としての目線から自然環境にやさしいと思われることを考え、その実現に向けたアクションをおこすというものである。提案は工事啓蒙用かわら版作成のような身近なものから直接工事内容の変更に



写真1 耐震補強工事現場における葎の生育の確認状況～エコミーティング活動より

補強工事に伴う重機があるからこそ可能な試みであった。

## 反響

この取組みに対する世間の反響を知る意味も兼ね、2011年に愛知県主催の環境賞に応募した。結果は銀賞受賞。これまで製造業大手企業しか受賞していなかった賞である。世間からの建設業への期待を感じるとともに取組みの方向性が間違っていないとの確信が得られた。

## 本物を目指して

今後「エコミーティング」をインフラ整備における自然環境との共生を実現する上での真に有効なツールにするには、環境保全に関する専門知識の習得は必須である。当社では専門知識を得る手段として(公財)日本生態系協会が認定するピオトップ管理士資格に絞った。2011年は19名が資格取得。今後もより多くの社員取得を促し、今よりさらに進化した地域インフラ整備を行える会社を目指す予定である。